



2024国際航空宇宙展 (JA2024) の開催に向けて

日本航空宇宙工業会は、本年10月16日（水）から19日（土）の4日間の日程で、東京ビッグサイトと共に、「2024国際航空宇宙展 (JA2024)」を開催いたします。出展申し込みは既に開始されており、本年4月末が締切り予定となっております。会場は、東京国際展示場（東京ビッグサイト）の西展示棟を予定しております。フルサイズでの国際航空宇宙展は、2016年以來の8年ぶりとなります。これは、東京オリンピックやコロナ禍のために、JA2020が開催できなかったことによるものです。

さて、今回のメインテーマは「宙（そら）で織りなす、拓がる未来」と題しております。コロナ禍を経て、航空宇宙産業を取り巻く環境はここ数年で大きく変化し、大きな拡がりを見せています。今後の航空宇宙産業の拡大及び多様化を表現するとともに、航空宇宙産業の振興を図る思いをメインテーマに込めています。JA2024では、このテーマのもとで航空宇宙産業の力強い発展を、出展者・来場者に広くアピールしてまいります。今回は最終日をトレードデー及びパブリックデーとしており、一般の方、さらには将来の航空宇宙産業界を担う子供や学生にも業界をアピールする好機と捉えております。

メインテーマは英文では、“SOARING for DIVERSITY, over the GLOBAL-SKY, into SPACE”としており、これは航空宇宙業界において、脱炭素を始めとして、今後対応が求められるSDGs分野が新たに展示会に加わることを表しております。

また、メインテーマを構成するサブテーマとして、「SDGs への航空宇宙産業の取り組み」、「新たな空を拓く輸送システム」及び「新しい人間活動領域への挑戦」の3つを柱としております。

まず、「SDGsの航空宇宙産業への取り組み」

においては、航空の脱炭素化に必須と言われるSAF（Sustainable Aviation Fuel; 持続可能な航空燃料）や、これからの航空分野における新技術である水素航空機や電動航空機などを含め、空港などのインフラ分野にも対象を広げております。

次に「新たな空を拓く輸送システム」においては、UAM（Urban Air Mobility; 都市型航空交通）と呼ばれる、人や物資を空路により輸送する都市交通システムにフォーカスし、eVTOL（Electric Vertical Take-Off and Landing aircraft; 電動垂直離着陸機）や、近年著しい速度で産業化が進んでいるドローンを対象としております。

最後の「新しい人間活動領域への挑戦」においては、これからの人間活動が地球近傍にとどまることなく、月や火星までも拡大することを目指し、そのための技術やアイデアを対象としております。また、これまでの宇宙インフラを劇的に変えつつある衛星コンステレーションやそのための小型衛星も対象としております。

JA2024の会場は、パリやファンボローなどの海外のエアショーに比べると制約があるのは事実ですが、多様な企業の本社や日本法人、官公庁、さらには大使館等が集結している東京の都心から近距離に位置しており、交通インフラも整っているためにアクセスが容易であるという好条件を有しております。ご出展いただいた各企業、団体の皆様には、必ず今後のビジネス拡大の一助となるものと確信しております。

JA2024の成功と我が国航空宇宙産業の一層の発展に向けて、SJAC職員一同はこれからもより一層努力して参りますので、会員企業をはじめとする多くの皆様方の引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。